

## 学生と教員の協働による実践的心理学研究

### 背景・目的

本教育研究課題は、本学科のモットーである「心理学は、机の上だけでは学べない。」に則り、学生と教員の協働を通じた実践的な心理学研究を展開するものである。今回は、新たに本教育研究課題の主要な活動と位置付けられた「MG-P スクエア」について報告する。

「MG-P スクエア」は、本学科に在籍する全ての学生が自由に参加・発表できる、2013年度新設の心理行動科学科合同研究発表会である。これまで本教育研究課題の核として位置付けられていた「心理行動実践セミナー」での活動を通して育成が期待されているスキルのうち、主に「教員や他の学生との協働による協調性」「研究成果の一般の方々への説明による情報伝達のスキル」などの育成が期待される。また、下級生にとっては上級生や教員から直接研究遂行上のアドバイスが得られる一方、上級生にとっては自分たちの研究を客観的に振り返ることが可能であり、学科内のタテの交流が促進される機会となり得る。

### 実施内容

**1年生:**「体験的イリュージョン」「エスカレーターはどう乗る?—安全利用のために—(ver.2)」など、「ココロサイコロ 2013」で発表された研究をブラッシュアップした内容の一部を発表した。

**3年生:**「kinectを使った感情検出の試み」「男女における「かわいい」の感じ方の違い」「女子大生における被服の流行の取り入れ方と性格との関連」「親密度の違う三者間での複数観衆問題」「冗談を言いにくい性格の特徴—青年期の女子大生の愛着スタイルに着目して—」など、3年次の「心理行動セミナー」で実施されたプレ

卒業研究の一部を発表した。また、「視覚マジック」「住宅地道路の安全を守るために一抜け道を走行する車両の特性とその対策—」など、ゼミの垣根を越えて組まれたプロジェクト研究についても発表を行った。

**4年生:**「第三者からの事前情報と対面時の視線量が印象形成に及ぼす効果」「Google Street View を用いた新奇空間における行動パターン」「社会的共有による怒り感情の鎮静効果—怒り対象との関係性と受け手の受容的反応の違いに着目して—」「叱り方の違いが受け手の認知的評価と自己成長感に及ぼす影響—関係性と受け手の性別に着目して—」など、完成直後の卒業研究の一部を発表した。

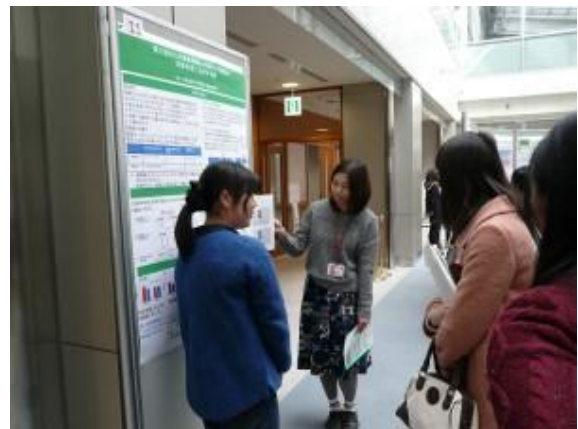


図. MG-P スクエアでの発表の様子

### 結果及び考察

今回はいずれもポスター形式による発表であり、また研究内容に応じて実験のデモンストレーションを行うなど、インタラクティブな活動となった。これらのことから、協働による協調性、情報伝達のスキルが一定程度獲得でき、学科内のタテの交流の促進がなされていたと考えられる。今後は、学年を越えたプロジェクトによる研究を展開するなど、「MG-P スクエア」の更なる発展が望まれる。